

令和2年度 十津川高等学校 学校評価総括表

教育方針		十津川の雄大な自然と地域の温もりの中で、「知・徳・体」の調和のとれた人間性豊かな生徒の育成を目指す。									
教育目標		多様な学習に取り組み、生徒が自ら発案し、自ら実践できる力を育成する。									
		生徒や地域住民の生命と未来を守るため、防災教育及びキャリア教育を推進する。									
		生徒・教職員相互に強固な信頼関係を築き、規範意識やコミュニケーション能力を育成する。									
		学習活動の中で生徒がやりがいを感じ、自己の能力に自信をもって行動することで、将来、地域社会に貢献できる能力を育成する。									
		保護者や地域からの信頼に応え、地域と共にある学校づくりを推進する。									
○平成31年度の成果と課題		本年度重点目標				取組					
放課後および家庭学習時間の増加を図り、確かな学力の習得を目指すため、朝の読書活動や放課後の学習に取り組むことができた。全ての活動において主体的で協働的に取り組む姿勢を育み、自己有用感を高められるようにしていくとともに、全校生徒が自発的に挨拶できるように指導を行う。特別な支援を要する生徒への共通理解を図り、研修を充実させて、教職員の資質向上を図る。防災意識の向上に向け実情に応じた訓練等を継続的に実施する。		基礎学力の定着を図るとともに、確かな学力の習得に向けた学習態度を養う。				生徒の実態を的確に把握し、創意工夫した学習指導に取り組む。					
		基本的な生活習慣の定着と規範意識の向上に向けた自律に基づく行動力を育成する。				挨拶指導の徹底等、日常的な関わりの中で基礎的人間力の向上に取り組む。					
		命を大切にし、他者への思いやりをもった豊かな心を育む。				あらゆる教育活動を通して「お互いに支え合って生きること」の大切さを考えさせる。					
		教育に関する情報の収集と発信に努め、学校魅力化の推進に取り組む。				ホームページやその他手段を通して、絶えず本校教育活動の発信に取り組み、生徒数の確保に努める。					
		働き方改革の実践により、生徒に向き合う時間の確保と教育活動の質の向上に努める。				業務改善と意識改革を通して、勤務時間や健康を意識した働き方に取り組む。					
		部活動・社会参加活動の推進とともに、地域と共にある学校づくりの更なる推進を行う。				部活動や社会参加活動の一層の活性化を図り、また、村内小・中学校との連携の充実と推進に取り組む。					
評価項目	具体的目標(評価小目標)	具体的方策	評価指標	中間期(9月)				年度末(3月)			
				自己評価	進捗状況			自己評価	成果と課題(評価結果の分析)		改善方策等
授業研究・学習指導	個別の学習時間を確保させる。	<ul style="list-style-type: none"> 学習教材を計画的に生徒へ提供することで、学習習慣を身に付けさせるとともに、進路実現に向けた取組の一環とする。 全学年の生徒に個別の学習計画表を作成させ、視覚化して常に意識させることで、学習の習慣化を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 曜日毎に国語、地歴公民、数学、理科、英語の各教科担当者から授業に関連した課題を提供いただき、授業外の学習時間の70分確保を目指す。 個別の学習計画表を全校生徒に配布し、学年主導で活用を図る。 	C	<ul style="list-style-type: none"> 各教科から放課後課題を曜日ごとに提供していただいたが、学習平均時間は60分であった。 コロナ対応で個別の学習計画表を配付できていない。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 学習課題を各教科から提供していただいた。 学習計画表を配付し、各HRで活用指導をしていただいた。 授業外の平均学習時間は約50分で、クラス間の差が大きくHR指導だけでなく教育課程の違いも原因と考えられる。また、平均読書時間は30分であった。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が授業以外でも活用できる副教材を選定する。 コロナ対応のオンライン学習を進展させて、平常時にもパソコン等を利用して授業に関係するオンライン学習ができるよう準備を進める。 	高校生議会等の機会を活用して議会と高校生との交流ができればいいと考えます。また、挨拶運動も村民との交流ができる機会なので、継続して頑張ってもらいたい。こういう仕事があるということがわかってもらい就職につながるので、地域との交流は続けてもらいたい。小規模校にしかできないことをやってもらいたい。		
	各コースに応じた有効な教育課程を実践する。	<ul style="list-style-type: none"> 「ふるさと学」、「吉野熊野学」等、学校設定科目を有効に活用し、卒業後に十津川地域で活躍できる力を身に付けさせる。 カリキュラムマネジメントを実践し、効率的な学習指導を展開する。 	<ul style="list-style-type: none"> 「ふるさと学」等の学校設定科目の学習状況をプロジェクトチームで取りまとめていただく。 科目ごとの年間学習項目を一覧表に入力していただき、学習内容の効率化を図る。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 1学期の授業期間が短く、「ふるさと学」等の学習状況の取りまとめが出来ていない。 カリキュラムマネジメントシートに科目ごとに入力いただいた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 「ふるさと学」の毎時間の実施内容を記録していただいたので、次年度の計画に反映できる。 各教科で「カリキュラムマネジメントシート」に入力していただいたが、十分に活用するまでには至っていない。 	<ul style="list-style-type: none"> カリキュラムマネジメントシートを活用した教育課程作成と、卒業後の進路に繋がる学校設定科目を検討する。 各教科で学校設定科目の学習内容を再考し、年間計画を作成する。 			
生徒指導	ルールを遵守する意義を生徒に理解させる。	<ul style="list-style-type: none"> 常に生徒の行動に気を配り、些細なルール違反であっても、その場で指導する。その際、生徒の事情等も聞き、一方的な指導にならないよう心掛ける。 スクールカウンセラー等関係機関とも連携を図りながら、個々の生徒の発達段階に応じた生活指導を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 全ての教員が生徒の変化に気づき、対応できるようにする。 全ての生徒が安心して高校生活を送ることができるようにする。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 在宅教育期間中はHR担任を中心に生徒や保護者と連絡を取り、生徒の状況把握に努めていた。また、学校再開後も生徒の様子を注意深く観察し、指導や支援を行っている。 感情をコントロールするのが苦手な生徒への指導が十分できていない。 	B	<ul style="list-style-type: none"> HR担任を中心に生徒の状況を把握し、学年にかかわらず教員間で生徒の情報を共有することができた。 生徒の個性や発達段階が多様化しており、適切な支援や指導を十分行えなかった生徒もいた。その結果、嫌な思いをした生徒が少なからずいた。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒に関する情報の共有をさらに強化し、多様化する生徒の個性に対応できるようにする。 あらゆる場面で全教員が自らの長所を生かした積極的な生徒指導を行う。 生徒だけでなく、教員も積極的にスクールカウンセラーと面談することを促す。 	面接指導について、実際に職場で面接をされている方に講師として来てもらうことも必要かと考えます。		
	生徒会活動が主体的に展開されるよう支援する。	<ul style="list-style-type: none"> 日常の高校生活や学校行事等において、生徒が何らかの役割を担い、責任感をもってその役割を果たせるようにする。 地域との関係機関と連携を図り、生徒が積極的にボランティア活動等に参加できる環境を整える。 	<ul style="list-style-type: none"> 80%以上の生徒が「自分は十津川高校を構成している一員である」と実感できるようにする。 80%以上の生徒が地域貢献に資する活動ができた実感できるようにする。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 長期にわたる在宅教育や、行事の中止や自粛が相次ぎ、生徒が活躍できる機会が非常に少なくなっている。2学期以降、生徒が自己有用感を高めることができる学校行事を可能な限り実施したり、地域に貢献できる活動に参加させたりしたい。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 様々な制約があった中で、文化祭や体育大会等の学校行事に80%以上の生徒が主体的に参加できたと感じている。 地域との交流活動がほとんどできなかったが、11月中旬から週に1度あいさつ運動を実施することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 今ある環境や状況の中で、どうすればより充実した生徒会活動ができるのかを、生徒会役員を中心に議論させる。 社会の情勢を鑑みながら、本校の生徒だけでも実施できる、地域貢献に資する活動を計画する。 			
キャリア教育	進路実現に向けた環境整備をする。	<ul style="list-style-type: none"> インターネット講義を有効活用できるように、定期的なチェック体制を整える。 面接指導の強化を図る。3年生を初めて担当する教員が多いため、教員研修等を早期に校内で実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 年度末のアンケートで使用満足度が70%以上になるような取組を実施する。 面接練習が10回以下の生徒をなくす。 教員の振り返りを行い、自己評価を5段階で行う。 	B	<ul style="list-style-type: none"> インターネット講座について本年度は7名の申し込みがあった。家庭学習中や夏期休業中での使用を定期的に促した。 面接について全体的に例年より約1ヶ月のずれが生じているので、これから指導の本番を迎えるような状況である。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 年度末のアンケートでは使用満足度71.4%であり、次年度も受講したいと思う生徒は100%であった。 教員の自己評価では5段階中4以上を回答したものが46.4%、3が17.9%、2以下は35.7%であった。 	<ul style="list-style-type: none"> 年間を通して継続的に活用させる意識付けに難しさを感じるが、有効に活用できている生徒も多数いるので計測活用したい。 就職と進学の見学方法の違いについて教員の研修や勉強会を行う必要がある。 			
	キャリア教育を促進する。	<ul style="list-style-type: none"> 各種検定受検を促進する。 受験前講座の充実を図る。 インターンシップを充実させるために、教育研究所主催のプログラムに積極的に参加させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 昨年度と比較した延べ人数の増加、上級への合格者数を指標とする。 インターンシップに関しては左記のプログラムに1名以上の生徒が参加できるように案内をする。また、村内については例年通り数名の参加を目標とする。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 感染症の影響で検定の中止が相次ぎ、2学期になって再開された状況である。 インターンシップについては中止の連絡をいただいた事業所もある中、十津川村役場、南都銀行において実施することができた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 検定の受検者総数は昨年度55人、今年度92人となった。 インターンシップはコロナウィルスの影響が大きく、中止となることが多かった。 	<ul style="list-style-type: none"> 継続的に受検を促し、受験前の補習授業等にも力を入れていく。 来年度の取組においても不透明な状況である。 			
安全環境	防災意識を向上させる。	<ul style="list-style-type: none"> 自分の身を守るためにどのように行動していくべきかという考え方をしっかりと身に付けさせるため、生徒、教職員ともに防災についての考え方や知っておくべきことを学ぶ機会を設ける。 事後指導を必ず実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 年間2回避難訓練を実施する。 避難訓練を生徒に予告なしで実施し、日頃の防災意識を向上させる。 	C	<ul style="list-style-type: none"> 感染症による在宅学習期間があり、予定していた避難訓練を行うことができなかった。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 予告なしの避難訓練を実施したことで、生徒や教員の防災意識の向上だけでなく、放送機器の改善点を知ることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 地震や火災についての避難訓練を実施するだけでなく、不審者対応や下校時の地震発生に対する訓練など、さまざまな状況に対応できる訓練を実施する必要がある。 	今年度、アンケートが未実施であったので、次年度改善をお願いしたい。防犯訓練を次年度是非とも行ってもらいたい。		
	美化意識を向上させる。	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の美化意識向上に向け、整備美化委員会を中心に美化活動、美化啓発活動を実施する。 整備美化委員で学校を回り、修繕箇所、清掃重点箇所を見つけ出し、改善する。 	<ul style="list-style-type: none"> 年間5回整備美化委員で校内美化活動を実施する。 整備美化委員主導で美化啓発活動を実施する。 学校の学習環境についてアンケートを実施し「学校がきれいになった」という回答の割合が50%以上となることを目指す。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 整備美化委員が定期的にリサイクル活動を行い、校内美化を進めることができた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 1年間を通して継続的にリサイクル活動を実施し、校内美化を進めた。また、大掃除の際に清掃箇所を確認するためのチェックシートを作成したことで、生徒一人一人の美化意識の向上を図ることができた。 学習環境についてのアンケートを実施できなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> 美化意識の向上を数値で知るためにも、学習環境についてのアンケートを実施するべきであった。 			

評価項目	具体的目標(評価小目標)	具体的方策	評価指標	中間期(9月)		年度末(3月)			
				自己評価	進捗状況	自己評価	成果と課題(評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価(結果・分析)及び改善方策
人権教育	人権教育において差別やいじめ、嫌がらせのない学校づくりに努める。	<ul style="list-style-type: none"> すべての生徒が快適な生活を送り、学習活動ができるよう努める。 身近な人間関係における人権意識を高め、社会で問題とされている事象についても目を向けさせる。 計画的にホームルーム指導案を作成し、続けて実践する。30年度より開始した人権を確かめあう日の取組を継続的に実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 年間5回程度、人権ホームルームを行い、その内容をまとめた「人権だより」を発行し、人権啓発に努める。 寮生自治会の話し合いの機会に、人権をテーマにした内容で寮生活について考えるよう勧める。 人権を確かめあう日の取組を計画どおり実施する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルスの影響で予定どおりの人権ホームルームができず、人権だよりも発行することができなかった。2学期以降、作成、発行したい。 人権を確かめあう日の取組は実施できている。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルスの影響で人権ホームルームの授業時数が減少したこともあり、人権だよりの発行が1回しかできなかった。 人権を確かめあう日の取組は、生徒に色々な視点から人権について考える良い機会になっている。そこでの感想などを共有できる場を設定したい。 	<ul style="list-style-type: none"> 人権だよりを定期的、計画的に発行するべきであった。 人権を確かめあう日の教材研究を行う。また、振り返りについて人権だよりやホームルームを利用して行う。 いじめや嫌がらせが起こらないよう、人権啓発やホームルームの展開をする。 	No.2
	特別支援教育において個々の特性に応じた支援体制づくりに努める。	<ul style="list-style-type: none"> 現在行っている支援体制のチェックを怠らず、これを基本にして個々の生徒に応じた支援のあり方をさらに考える。また、定期的に会議を持ち、生徒の実状を把握する。 	<ul style="list-style-type: none"> 特別支援教育に関し、「支援の在り方」について検討し、実践を重ね、取組と成果との結びつきを全職員で検証する。 学期ごとに支援体制を確認し、年度末に向けてその方途の確立を目指す。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 9月時点で特別支援計画を作成を必要とする生徒は確認していない。今後も細かなチェックを怠らず、全職員で共通認識したい。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 個別の指導計画等の作成が必要な生徒はいなかったが、配慮の必要な生徒は多数存在している。職員朝礼や職員会議等において、全職員の共通理解に努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> クラス、学年を中心にきめ細かく観察し、全職員で共通理解を図る。 	
文化情報	本校の広報活動を充実させる。	<ul style="list-style-type: none"> 学校ホームページを軸として、教育活動の内容を発信し、本校を多くの方に知っていただく。 中学生や中学校に向けたアプローチ方法を整理・実践し、入学希望者数の増加を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> 文化情報部が中心となり定期的なホームページ更新を促す。また、ホームページのコンテンツを充実させる。 中学生の体験入学における、中学生の参加目標人数 45名を目指す。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 学校ホームページは、最新情報を16件、寮通信は毎月更新し定期的に更新できている。 学校広報については、6月にリーフレット、7月にパンフレットを作成した。今年度はe-オープンスクールを実施し、紹介動画の掲載も行っている。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 学校ホームページの更新を定期的に行い、外部や保護者に向けての情報発信を行うことができた。寮通信のホームページ掲載、e-オープンスクール、学校紹介動画、SNS投稿など新しい手法を使って積極的な広報活動ができた。体験入学では、34名の中学生の参加があった。 	<ul style="list-style-type: none"> 部活動や各部署への更新依頼と声掛けを行い、ホームページの内容をより充実したものにする。 動画作成やホームページ作成に関する知見を部員に広め、より多くの教員が扱えるようにする。 	コロナ禍の中で、中学生の体験入学が45名の参加があり成果があったと考えます。今後も動画等を入れたホームページの更新をお願いしたい。また、村の自治体放送が2チャンネルになったので、定期的に活動の放映も検討してください。
	読書習慣を身に付けさせる。	<ul style="list-style-type: none"> 図書委員と連携し、生徒、教員の希望する図書の充実をはかったり、利用しやすい図書室を整備したりして、読書活動を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> 図書の貸し出し冊数年間300冊を目標とする。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 現在の貸出冊数は、31冊である。生徒の購入希望図書の調査やバーコードでの貸出システムの導入を行った。今後新着図書の紹介、学級文庫の入れ替えを行っていく。 	C	<ul style="list-style-type: none"> 新規購入本のリストを教室に掲示し、生徒に周知を図る。 小説を作家別に整理を行い、生徒が読みたい本を探しやすくする。 		
	文化行事を通じて生徒の主体性を育む。	<ul style="list-style-type: none"> 文化鑑賞会や高文連巡回展などの文化行事における生徒の活躍の機会を増やす。 文化委員が中心となり、文化祭の企画・運営を行い、生徒自らが魅力的な文化祭の実現に向けて取り組めるように指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> 文化祭終了後、アンケート調査を実施し、「満足できた」という旨の回答を90%以上とする。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 今年度はコロナ禍の中、文化行事は規模を縮小して実施予定としている。文化委員を中心に制限のある状況で出来ることを考案させ、文化祭の準備を進めている。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 文化祭は、模擬店を実施せず、舞台発表も感染症対策を行いながらの実施となった。その状況で、文化委員が中心となり文化祭運営を行うことができた。従来通りの文化祭とはいかず、アンケートで「満足できた」と答えた生徒は、78%に留まった。 	<ul style="list-style-type: none"> 文化委員の負担だけが増えないように、他の生徒も巻き込むような文化祭運営を目指す。 コロナ禍を想定し、安心して楽しむことができる文化行事を運営する。 	
学校寮	基本的な生活習慣を身に付けさせる。	<ul style="list-style-type: none"> 日々の寮日課のもと、規則正しい生活習慣や生活リズムを身につけさせることで、安定した寮生活の定着を図る。また、日常生活においてはルールや規則を厳守させ、礼儀作法等の教育にも力を入れながら、対人コミュニケーション力の向上に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 舎監担当教員や同部屋での上級生、寮自治会生徒などが繰り返し指導することで、寮生全員が一つになり、目標・目的に向かって進めるような環境をつくる。 受動的な指導にならず、寮生が物事を自発的に考え、判断し、行動できるよう促す。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 健全で規律ある生活ができるよう、あらゆる場面において指導や確認を繰り返しながら、常に寮生の規範意識向上に努めている。 自治活動など、寮生が日々主体となって計画や行動ができるようになっている。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 寮内においても「新しい生活様式」が求められる中、自治会生徒が中心となり、全体に対して規範意識の向上を促した。また、今までに無き厳しい制約の下、寮生同士が協力し合いながら感染症防止に努めている。しかしながら一部、他人事のような態度をとるなど、その意識が低い者もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 寮生各人の思考や行動が受動的から能動的へと変革し、その後自立して卒業できるように、寮生活を通じた人間形成を目指す。さらに、将来への計画的な人生ビジョンを創造することができるよう、個別指導も継続していく。 	3密の規制の中で心配していたが、問題なく寮の運営を行っていることがわかった。
	組織的な寮運営の実践と連携の強化を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> 舎監業務等に関する共通認識と共通理解を確かめ合い、統一した寮運営が継続するよう組織の意識改革を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 職員会議等、定期的に寮生の様子をはじめ運営上の課題などについてを全体で共有し、それらに個人差が発生して不信感を招くことのないよう、誠実な対応に努める。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 寮生の様子について、気付いた点や心配する事項などを全教職員から毎月報告してもらい、その情報を常に共有している。 寮に関して教職員へ積極的な提言を求めながら、組織運営の強化に努めている。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 寮運営全般について「舎監ガイドブック」を作成した。これにより舎監担当者による認識の差異が大きく解消し、また共通した指導を受けることで寮生からの不満が減少した。年度途中で専任舎監が不在となり、現在もなお、その業務を代行する負担は大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> 前年踏襲型にならないよう、本年度の反省点を詳細に洗い出しながら、その根拠をもとにあらゆる角度から職員全体で課題を検討し、改善していく。 	
第1学年	進路	<ul style="list-style-type: none"> 高校3年間のビジョンを描き、それに向けた計画を立てさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 年間や学期ごとの目標を立てさせ、各学期末に目標の到達度を自己評価させる。 数名ではあるが、進学に向け、進路計画を立て始めている生徒がいる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 各HRごとに学期目標と年間目標を立て、目標達成に取り組んでいる。 数名ではあるが、進学に向け、進路計画を立て始めている生徒がいる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 学期ごとに各自が具体的な目標を設定して、目標を達成するために努力し、やり遂げる姿勢をみせる生徒がいた。その反面、自ら立てた目標達成に向けた行動を一切取らない生徒もいた。 具体的な進路を掲げる生徒も各クラス数名おり、大半の生徒が進路について自ら調べている。 	<ul style="list-style-type: none"> 成功体験が少ない生徒には生活面等の小さなことから目標を設定し、「やればできる」を体感できるようにサポートする。 調べた内容を振り返ることができるよう、細かに手帳へ記録するように指導する。また、進路指導室を有効に活用し、進路に対しての意欲をさらに向上させる。 	取組をよくやっていたことが理解できた。
	学習	<ul style="list-style-type: none"> 学習習慣と基礎学力の定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 日々の授業を大切に、与えられた課題や提出物等は必ず期限を守ることを徹底させる。 スタディサプリ等を積極的に導入し、復習を生徒自身で行える環境を整える。 	C	<ul style="list-style-type: none"> HR担任の努力もあり課題提出状況は良いが、1学期の授業への遅刻、途中退室が39回と非常に多い。また欠点総数も34であった。 スタディサプリは2名が受講している。さらに効果的な活用を促す。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 学期が進むにつれ、授業への遅刻、途中退室が減少してきた。一方で、気持ちの面等で短期間登校できない生徒もいた。 欠点者や欠点総数には変化があまり見られない。身についた生活習慣を学習に結びつける必要がある。また生活習慣の改善がまだまだ必要な生徒もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 必要に応じて学年会議を開き、生徒の状況や情報を共有していく。 成績不振者は年間を通して多かつたため、進路LHRの展開方法の工夫や個人面談を定期的に行い、担任と教科担当者の連携も強化していく。 	
第2学年	進路	<ul style="list-style-type: none"> クラスや部活動、その他様々な状況下においても的確な判断や行動ができ、学校の諸行事を牽引できる生徒を育てるため、学年教員から各生徒個人に具体的な指導や声掛けを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会やボランティア活動等への参加経験生徒が過半数に達する。 様々な経験をもとに、すべての生徒が具体的な進路希望を意識する。 	C	<ul style="list-style-type: none"> コロナの影響でボランティア活動が出来ていない。 具体的な進路希望を年度末までに確定出来るよう、HR等で展開中である。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 2年生が生徒会の中心学年として活躍した。また、部活動等にも積極的に参加する生徒が多く、競技成果も残した。 2学期後半から、進路に向けて具体的に行動する生徒が増えた。 	<ul style="list-style-type: none"> 年度初めに進路に向けての具体的な計画を立てさせ、進路に向けて行動できるよう意識付けする。 夏休みを有効に活用して、オープンキャンパスや企業見学に参加させる。 	取組をよくやっていたことが理解できた。
	学習	<ul style="list-style-type: none"> 短い期間の計画表を作成させ、毎時の授業はもちろん、予習や復習の重要性を伝えながら、自分の進路目標を具体的に設定できるような学習を指導、サポートする。 	<ul style="list-style-type: none"> 各学期、年度末の不振科目数を昨年度より減少させる。 手帳を利用して、年間5回、学習目標と自己評価を記入させ、HR担任が確認する。 	C	<ul style="list-style-type: none"> 1学期の不振科目が7科目から8科目に増えた。 HRが不定期で、手帳利用に関する指導が十分に出来ていない。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 2学期の不振科目数も、大幅に増えた。指導等で授業に参加できていない生徒が一因となっている。 各HRで手帳と学習計画表を効果的に活用できるよう指導した。 	<ul style="list-style-type: none"> 学年教員が積極的にコミュニケーションをとることで問題行動を未然に防ぎ、授業に積極的に参加できる雰囲気を作る。 学習計画表と手帳を併用して、学習状況の振り返りをさせる。 	

評価項目	具体的目標(評価小目標)	具体的方策	評価指標	中間期(9月)		年度末(3月)			
				自己評価	進捗状況	自己評価	成果と課題 (評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価 (結果・分析) 及び改善方策
第3学年	進路 自己表現力を高め、進路を実現する。	<ul style="list-style-type: none"> 本校での学習を活かし、他者と協働して実践できる生徒を育成する。 「進路実現」に向け、意思決定と正しい努力ができる生徒を育成する。 「目標達成後の自分の姿」を考えて行動できる生徒を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒や保護者との連携を更に強化し、多角的かつ柔軟な進路指導を行うことで、全員が各人の能力や資質に見合う進路先を決定する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 将来への展望と同時に再度、客観的に自己を見つめさせ、生徒一人ひとりの特性や技能に見合った進路先の決定に向けて慎重に進めている。また、保護者と連携してその意向も尊重しながら進路指導に努めている。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 生徒個人の能力や特性を慎重に見極めながら、本人の意志を尊重するとともに、保護者の意向との調整にも努めた。特に進学希望者など、各自がそれぞれの目標を定めて学習を続けてきたが、全員が希望する進路実現には至らなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> 企業が求める人材像や大学入試制度など、社会的背景とともに今後もさらに変わるであろう内容について、これまで以上に研修・研鑽を積むことはもちろん、時代に乗り遅れることのないよう常に最新の情報やノウハウ等を確保する。 	取組をよくやっていたことが理解できた。
	生活 知・徳・体の調和した、社会に貢献できる人材の育成を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> 勤労を尊び、自主的・積極的に行動できる心身共に健全な産業人を育成する。 専門的な知識や技能を修得し、たくましく社会を生き抜く力を育成する。 学級活動等の特別活動をとおして自主性や協調性を育み、豊かな心を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校内はもちろん、地域社会の一員であることに自覚と誇りをもたせ、校内外での諸活動をとおして社会に貢献する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 社会情勢により校内においての活動が縮小し、また校外での活動が制限された中ではあるが、専門的な知識・技能を可能な限り修得させて、社会貢献できる人材を育成するよう努めている。 	B			
研修	教育活動に還元できる研修を実施する。また、本校の魅力を外部へ発信し、本年度以上の受験者数の確保を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 小中高で共通した教育課題を取り上げ、その解決に向けて研修を行い、資質向上に努める。 ホームページの充実、中学校の訪問等を通して、本校教育の取組を生徒や保護者、中学校の先生からの理解を図れるよう努める。 村役場等関係機関と連携をとりながら、地域と共にある学校づくりの推進を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 研修事後アンケート調査等で研修が有効と感じる教員の割合を80%以上にする。 本校を受験する生徒数を40名以上確保する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> コロナの影響で合同研修会が中止となったため、次年度に向けて、有意義な研修会になるようアンケート調査等を企画していきたい。 職員は教育研究所の新しい形の遠隔研修にしっかり取り組んでいる。 コロナ禍の状況で、できる範囲で地域と共にある学校づくりに取り組んでいる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 小中高の教員対象に合同研修に向けたアンケート調査を行い、各校種に共通した教育課題の把握に努めた。 コロナ禍の中で職員は熱心に遠隔研修に取り組めた。 全国募集に1名の申請があったが、一層広報に努める必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒対応に必要な資質向上の図れる研修を行う。 県内外への広報活動を、関係機関と連携して効果的な方法で展開する。また、中学校等の教員に対して、本校教育の取組を知ってもらう機会を設ける。 	コロナの状況を見ながら、研修については検討をお願いします。また、本校の良いところを積極的にPRをお願いしたい。
事務校	学校の安全の確保及び環境整備に努める。	<ul style="list-style-type: none"> 定期的な巡視を行い、不良・不具合箇所の早期発見、補修、修繕に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 補修・修繕等が必要な箇所に対しては関係各課へ予算要望を行う。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 職員公舎のシャワー設置の要望を行い、一部であるが設置できた。その他修繕等は予算内で対応中。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 職員公舎全室のシャワー設置、グラウンドの環境整備等の改善ができた。しかし、校舎、寮、職員公舎等の学校施設、設備において修繕の必要な箇所が多数残っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 未修理箇所において要望箇所の優先順位の精査を行い、引き続いて関係部署への予算要求と計画的な修繕の取組が必要である。 	優先順位を踏まえて引き続き整備をお願いしたい。